

やまゆり通信

VOL.9

平成 29 年 7 月 30 日

天竜やまゆり保護者会

会長 藤田 担当 川井

平素は保護者会の活動にご協力頂き、誠にありがとうございます。

7月9日(日) 草取り&定例会を開催致しました。

(草取り) 暑い中を皆で、病院駐車場の草取りを奮闘し、ゴミ袋 12 袋分!! 御協力をありがとうございました。とてもきれいになりました。

(病院からのプチ講演) 院内感染対策の一環として、感染予防のお話がありました。

手洗い・マスクは、通常となりましたがその中でも、最も重要なものが

『手洗い』 スライドを交えながら正しい手洗いの仕方を学びました。

(参考資料添付)



♪藤田会長より

① 『6月10日(土)守る会全国大会が金沢で開催』

保護者会より3名参加いたしました。(約1200名の参加者)

主に行政説明と分科会。行政説明では 児者一貫を恒久化した事の確認
障害者の枠も広がり、福祉サービスの利用者数及び予算も増えているが、
従事者が不足。医療的ケア児コーディネーター養成講座開催など幅広く
プロとしての資格を検討しながら人材確保をしていく。

② 『7月8日(土)ティンクル愛知保護者交流会』

会長福島さん率いる保護者会会員数 55 名と役員6名。

懐かしい顔ぶれもあり、天竜に入所していた大川さん・丹羽さんとの再会。天竜保護者会より6名、指導室より4名参加し、施設見学と意見交流会を行いました。お互いの良さを尊重しながら足りない部分をこれからの改善点として、子供達のために保護者会として出来ることを施設・病院側と寄り添い協力して行きましょう♪次回は天竜へ是非お越し下さい♪



♪ 『療育指導 森室長より』

天竜やまゆり保護者会の皆さまには、療育・行事活動に際して、いつもご理解・ご協力いただきまして、ありがとうございます。

現在行われている個別支援計画の家族面談につきましても、ご家族・成年後見人の方々にご出席いただき、両病棟共に8月までで無事終了の予定です。

総会等でもお知らせさせていただいておりますが、今年度もいろいろな行事を用意致しました。8月15日(火)・16日(水)には、夏まつり行事も企画しており、各病棟での準備を進めています。各行事につきましては、その都度予定をお知らせさせていただきますので、ご都合があえばぜひ一緒にご参加いただければと思っております。

今後も療育・行事活動に一層力を入れていきたいと、療育指導科一同頑張っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

天竜病院療育指導室長 森 一夫

<全国重症心身障害児（者）を守る会 全国大会に参加して>

川井 千代美

<概要>

日時 2017年6月10日(土)～11日(日)

場所 ホテル金沢 (石川県)

内容 18日 行政説明(厚生労働省) 障害保険福祉施策の動向

分科会 1～4分科会

参加したのは、第1分科会(国立施設部会)

19日 みんなで語ろう

式典

参加者 1000名弱

静岡からは、21名程度参加/天竜病院からは、保護者会のみ。

<所感>

1. 行政説明(厚生労働省) 障害保健福祉施策の動向

今年3月8日に、児者一貫体制の恒久化が決定し、『入所者の年齢や状態に応じた適切な日中活動を提供する』ことが前提に、医療型入所施設と療養介護の両方の指定を同時に受ける、現行のみなし規定を恒久化する。

施行は平成30年4月であるが、診療報酬および障害福祉サービス報酬の同時改定を迎える。この改正を含め、障害福祉施策の経緯や予算等を含めた概要説明があった。

障害児者が年々増加しており、その中でも 医療的ケアを要する障害児が急増している。また、児童発達支援においては放課後デイサービス利用者も増加している。入所系よりも通所や在宅での福祉サービスを充実させている。これは、入所サービスは一旦落ち着いたということか……。不服を感じたのは、私だけなのだろうか……。予算的には、10年前よりも増えている。マンパワー不足もあるがより良いサービスにつなげなければならない。平成29年度 医療的ケア児等コーディネーター養成研修事業を実施する。

2. 分科会

第1分科会(国立施設部会)

「重症心身障害児者の入所支援のあり方」

重症心身障害医療は、国立病院機構の柱。地域のセーフティネットとして支える医療

機構の取り組み・・・(1)在宅療養支援

(モデル事業・・・長良医療センター・南京都病院)

(2)セーフティーネット分野の医療の確実な提供

*NICUの後方支援病床との機能

*医師向けの重心に関する研修

*強度行動障害医療研修

*療養介護サービス研修

*障害者虐待防止セミナー

重心者の年齢・状態に応じた支援の取り組み

全体的な患者の高齢化に伴う合併症等への対応が必須であり、医療の質の改善を要する。

今後の支援の在り方

障害者本人の最善の利益の保障・家族支援の重視

地域における縦横連携の推進

感想

参加して、自分自身のモチベーションがあがりました。自分ひとりではなく皆がいるんだと大変有意義であり親の真剣さを学んだ全国大会となりました。

～ 曾根 依志子 ～

今回、大会前日より会場設営等お手伝いに金沢入りしました。富山の保護者の方々30人と共に3日間過ごしました。皆さん本当に守る会に熱心で真剣さが本当に伝わってきました。また、守る会東海北陸ブロック長5名の皆様と会食をさせて頂くことができ、守る会の真髓の部分に少し触れることも出来ました。守る会本部の方々の国への働きかけ(特に厚生省)が、あってこそこの現状です。今後も引き続き、情報を得ると共に、守る会とのつながりを大切にし、また、若い世代へも継承されていくように努力していきたいと思えます。置かれた環境に感謝し、より良い医療・福祉・生活が子供や兄弟姉妹に存続できる事を切に願ってやみません。

以上